

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

②施設・事業所情報

名称：ふたば保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：今田 安紀	定員（利用人数）： 120名（116名）
所在地：〒245-0016 横浜市泉区和泉町1368	
TEL：045-802-3713	
ホームページ： http://www3.plala.or.jp/ntsuduki/	

【施設・事業所の概要】

開設年月日 1968年4月1日			
経営法人・設置主体（法人名等）： 社会福祉法人 和泉福祉会			
職員数	常勤職員： 32名	非常勤職員： 7名	
専門職員	保育士： 30名	看護師： 1名	
	栄養士 3名	調理師 1名	
施設・設備 の概要	(居室数)	(設備等)	
	保育室6室、事務室・職員室1室、相談室1室、職員休憩室1室、給食室1室、ランチルーム1室、ランチテラス	・0歳、1歳の部屋が床暖房です。 ・駐車場は8台あります。 ・園舎内の窓は大きく明るいウッドデッキがあります。 ・園庭が広くアスレチックなど固定遊具が充実しています。 ・警備会社の警備システムが入っています。	

ふたば保育園は、横浜市営地下鉄「下飯田」駅から、10分ほど歩いた住宅地の中にあります。周辺には畑や通信隊跡地、和泉川べりなどがあり、子どもたちが豊かな自然に触れることができます。園は、1968年（昭和43年）4月、社会福祉法人和泉福祉会によって開設されました。園舎は、鉄骨2階建てで、乳児棟と幼児棟に分かれていて、短い廊下でつながっています。窓ガラスを多用した園舎は、日当たりがよく、幼児棟1階ランチルームに面してウッドデッキがあり、開放的な雰囲気となっています。広々とした園庭には、丸太を組んだアスレチック遊具やジャングルジム、砂場などがあり、隣接して園専用の畑があります。定員は120名（産休明け～5歳児）で、開園時間は、平日（月～金）7:00～19:15、土曜日7:00～18:00です。

③理念・基本方針

○保育理念

社会福祉法人和泉福祉会は、昭和43年3月2日に初代和泉福祉会理事長今田義之により横浜市戸塚区（後年泉区に区分）和泉町1368に設立され、同年4月1日「ふたば保育園」が誕生しました。保育園設立には、「地域の次世代を担う子どもたちの良質な発達を児童福祉の理念に基づき支援していく事により地域福祉への貢献・発達に寄与する」という設立者の強い「思い」が色濃く反映されています。現代社会を生きる子どもたちを思うとき、まずは、その個性の尊重とそれを支える健やかな体、そして豊かな心の育ちを願わずにはられません。子どもがそれぞれに持っている個性を認め、柔軟に受け止め、尊重しながら、保育者との安定した信頼関係を基に個々に応じた社会性の芽生え・育ちを援助し、多様化する現代社会の中でたくましく「生きる」為の基礎を育むこと、これが和泉福祉会の理念です。

○保育目標

「たくましく心豊かに育つ子ども」
かんがえる子・じょうぶな子・思いやりのある子

○保育姿勢

- ・薄着で過ごし身体を鍛える
- ・様々な体験を通して喜んで話をしたり聞いたりする
- ・異年齢の友だちと関わったり、身近な社会へ関心を示し、労りや感謝の気持ちを持つ

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・広い園庭で子どもたちが十分遊べる環境です
- ・運動会は園庭で開催します
- ・朝、夕の異年齢交流があります
- ・固定遊具が充実しています（アスレチックや乳児用すべり台）
- ・週に一度専門の講師による体育教室の実施（幼児のみ）により、身体能力を高めています
- ・園児が受講できる課外教室があります（体育教室、英語教室、ピアノ教室、バレエ教室）
- ・和太鼓が2台あり、園児が保育で取り組んでいます
- ・園の畑があり、芋やピーマンなど年長が中心に育て給食に入れたり、焼き芋にしたりしています
- ・プールは、クラス毎に曜日を決めて実施し、楽しんでます
- ・園舎には窓が沢山あり、開放的な雰囲気となっています

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年8月1日（契約日）～2023年4月17日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	4回（2017年度）

⑥総評

◆特長や今後期待される点

【特長】

●子どもたちは自分の気持ちを素直に表現し、身体をたくさん動かし、元気いっぱいに園生活を楽しんでます

園は保育目標に「たくましく心豊かに育つ子ども」を掲げ、外遊びに力を入れています。雨でなければ毎日、外遊びの時間を設け、子どもたちが身体を鍛えるとともに、身近な自然に触れられるようにしています。全クラスが遊べる広い園庭があり、保育士の見守りのもと、子どもたちは、鉄棒やボール遊び、三輪車、砂遊びなどそれぞれが好きな遊びを見つけ、のびのびと身体を動かしたり、友だちと一緒に砂場でごっこ遊びをしたりしています。自分で遊びを見つけれない子どもには、保育士が寄り添い、一緒に遊びを探しています。異年齢の関わりも多く、年下の子どもが年上の子どもの遊びの真似をしたり、年上の子どもが年下の子どもの手助けをしたりする姿が、あちこちに見られます。観察時には幼児のリレーを見た1歳児が真似をして、皆でかけっこを楽しんでいる姿を見ることができました。園庭の隣には園の畑があり、季節の野菜を収穫して調理してもらって食べたり、サツマイモを掘って焼き芋を楽しむなどしています。また、季節の製作や和太鼓など、表現活動にも力を入れています。季節の行事も多くあり、行事の内容を子どもたちで話し合っ決めて決めるなどの機会を通し、子どもたちが自分で考え、発表できるようにしています。幼児の当番活動では、自分たちで考えたゲームやクイズを当番が提供するなどしています。

このような取り組みを通して、子どもたちは素直に自分の気持ちを言葉で表現し、元気いっぱいに園生活を楽しんでます。

●会議や園内研修で話し合い、子ども主体の保育の実践を目指しています

保育士は、クラスでの日々の話し合いやカリキュラム会議で、クラスの様子や一人ひとりの子どもの状況、保護者の様子について話し合い、一人ひとりの子どもが園での生活を楽しめるように支援しています。保育室の環境構成や子どもへの対応、子どもの食へのこだわりなどのクラスの課題は、職員会議や園内研修で報告して園全体の課題として検討しています。ヒヤリハットや職員から出された「業務改善提案書」等で把握した課題を取り上げることもあります。子どものためという職員の意識は強く、それぞれの立場や職種の専門性、経験などを踏まえた活発な意見交換がされています。食事など具体的な場面をあげて話し合い、手順書を作るなどして、職員間で意識の統一を図り、職員は連携して、子ども主体の保育実践の向上に取り組んでいます。

【今後に期待される点】

●保護者への情報提供の方法を工夫し、連携を深めていくことが期待されます

毎日の連絡帳や送迎時の会話で保護者と子どもの様子について情報交換しています。年1回の個人面談でも子どもの様子を伝えていきます。毎月のおたよりや掲示で保護者に情報提供しています。ただし、保護者アンケートでは、保護者との連携・交流の項目の満足度が低く、自由意見でもコロナ禍ということを理解しつつも情報交換不足を指摘する意見が複数あがっています。保護者が分かりやすい情報提供の方法を工夫するとともに、オンラインでの懇談会など方法を工夫したり、保護者参加行事のあり方を見直すなどして、保護者が園の取り組みを見る機会を積極的に作り、保護者との連携を深めていくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

本園は、保育理念である「たくましく 心豊かに育つ子ども」「考える子 じょうぶな子 おもいやりのある子」を保育基本目標として歩んでまいりました。

今回5回目の受審となりました第三者評価でしたが、園の職員体制が変化しているため、経験した職員が少なく、まず全職員が説明会に参加するところから始まりました。評価項目や内容に戸惑いながらも、職員一人ひとりが自己評価を行い、それを各クラスのリーダーがまとめて各クラスのリーダーと給食、看護師が参加する会議で意見交換をしました。全職員シフト勤務のため、話し合いの時間を作ることは大変でしたが、積極的に意見を出してくれました。その結果をもとに、園長と三役（主任・副主任・専門職リーダー）で今後の保育や運営に関わる内容について評価表を作成することができました。

コロナ禍という時代の変化や周りの状況にあわせての対応を意識しながら、子どもたちが安全に楽しく過ごせるよう日々の保育に取り組んでまいりましたが、今回の受審で改めて保育を様々な視点から客観的に振り返り見つめ直す良い機会となりました。職員一同、評価結果を真摯に受け止め、できることから改善に向けて取り組んでまいります。

今回の第三者評価受審にあたりお忙しい中、利用者アンケートにご協力いただいた保護者の皆様には心より感謝いたします。その中で総合的な満足度として「満足・おおむね満足」という回答を多くいただきましたことは、職員への大きな励みとなりました。

重ねて感謝申し上げます。

今後も、保護者の皆様のご理解ご協力をいただきながら職員の意識の向上、保育事業の向上に努めてまいりたいと思います。

評価機関の方々には、貴重な意見やアドバイスをいただき、また今まで気づかなかった良いところもたくさん見つけていただき心よりお礼申し上げます。

ふたば保育園職員一同

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり